

## 8. 「日本史探究」の教科書をよむ(1)―原始・古代

2025.11.28. 大橋 幸泰

はじめに

第一学習社版「日本史探究」の教科書における叙述を材料に、現在の歴史学との関係を読み解く  
→本日は、原始・古代を対象

### 1. 生産経済への移行

【注目史料】

- ・弥生時代の遺跡 pp.25
- 縄文時代晩期と考えられていた板付遺跡(福岡)に水田遺跡／弥生時代前期の砂沢遺跡(青森)から縄文時代晩期の特徴を持つ土器が出土
- \* 縄文時代と弥生時代が錯綜しているのはなぜか？

縄文時代と弥生時代の区分指標は使用土器

- 注目すべきなのは経済形態の変化／採集経済から生産経済へ pp.20-23
- \* ただし、日本列島一律に進行したのではない

縄文時代晩期に農耕が出現との説 pp.27

- a.野生種の有用植物が大型化／クリ・ヒエ・マメなどが管理・栽培されたのではないか
- 水稲農耕とともに畝栽培の技術が導入された際に、在来の有用植物も栽培対象となったという解釈も可能
- b.土器に付着した圧痕から、イネ・オオムギ・アワなどの大陸系穀物が栽培されたのではないか
- 水田農耕を指標に弥生時代と考えるとすれば、弥生時代の始期を遡らせるべき
- \* 実際、AMS 法による放射性炭素 C14 年代測定 pp.27 により、その始期を従来の紀元前 5-4C から紀元前 10C へ変更するべき、とする問題提起(2003 国立歴史民俗博物館の研究チーム)

歴博による問題提起には批判も多かったが、現在、弥生時代の始期を紀元前5-4Cとする説は否定

- \* 第一学習社版では、紀元前 7-5C pp.22 / 日本列島上、縄文時代晩期と弥生時代前期は混在
- 水稲農耕の伝播／九州・中国・四国・近畿を経て日本列島へ浸透
- \* ただし、東日本に水稲農耕が到達・定着するのは紀元前 4C 以降／西日本の弥生時代と東日本の縄文時代が 300-400 年程度併行／東北地方北部以北は続縄文時代、西南諸島は貝塚時代 pp.22
- 日本列島における人々の生活を一律にとらえることはできない／列島内の文化の多様性とともに、東アジアとのつながりに注目すべき
- \* 生産経済への移行にともなう「境界」の形成／クニ・ジェンダー・身分など pp.23

### 2. 天皇号と日本号の成立

【注目史料】

- ・「大君は神にしませば」(『万葉集』にある大伴御行の歌)／「天皇」号記載の木簡(677 飛鳥池工房遺跡) pp.40

→ 672 壬申の乱に勝利した大海人皇子が飛鳥浄御原宮で即位／天武天皇が強力な権力を掌握  
→ ヤマト政権の中国に対する姿勢も変化／そのトップの称号が、「大王」から「天皇」へ転回するとともに、王朝名としての国号「日本」（中国から見て東の意）も成立、という理解が通説化／その一方で、「天皇」号は推古朝(7C 初)・天智朝(7C 中)に登場したという説

\* 「天皇」という称号はどのように成立したか？

・ 「大王」オオキミ／ 5C 以降、日本列島の他の王より上位の王の意／当該期のヤマト政権は首長連合政権  
・ 「天皇」スメラミコト／「澄む」＋敬称／命ずる主体の神威性を高める称号／スメラミコトという音そのものは推古朝(7C 初)以前から存在／和語のスメラミコトに対応する漢語として「天皇」号が登場／中国の「皇帝」「天子」を避けつつ、対抗する意図

→ 公式令(行政文書を規定)／生前の事績を賞賛した死後の名「天皇諡」(和風諡号)を規定／たとえば、天武天皇は「天淳中原瀛真人天皇」アメノヌナハラオキノマヒト・スメラミコト

→ 8C 後、唐風化政策の一環として、和風諡号から漢風諡号へ転換／「〇〇天皇」という称号の成立

国号「日本」の成立は7C 後／「天皇」号の成立とは分けて考えるべきか

→ 「大王」から「天皇」への転回／発音の方法を含めて、段階的に移行

\* その背景に、8C 後-9C の唐風化政策が存在／それ以前(奈良時代)までの中国模倣は表面的

→ 特に桓武朝以降、中国儀礼の積極的導入／密教の導入など中国の影響を受けた弘仁・貞観文化へ pp.58

### 3. 国風文化の内実

【注目史料】

・ 浄土信仰、儀礼・年中行事を含む貴族の生活 pp.59

→ 清少納言『枕草子』や紫式部『源氏物語』に代表される仮名文字を使用した女性文学などとともに、10-11C 中に「国風」的な文化が展開したとの理解

\* 「国風」とはどのような意味か？

「国風文化」という歴史用語／ 1950 代に歴史教育において定着

\* 背景に、戦後の民主化運動のなかで注目されるようになった、民族問題・民族文化の議論が存在／遣唐使廃止(894)を契機として生じた中国と断絶状態のなかで、日本独自の文化が育成されたと理解

→ しかし、そもそも「国風」の国とは国民国家の意ではない／くにぶり、土俗的、その土地、の意

\* 実際、『枕草子』『源氏物語』は『白氏文集』(中国唐代の白居易の詩文集)から多数引用／宮中の儀礼・年中行事も中国文化の影響／漢学的教養が前提

→ 商人や僧侶の交流は活発 pp.57 / a. 貴族による唐物の欲求、b. 中国から浄土信仰・末法思想の流入

\* 「国風文化」とは、中国文化を意識して展開した、その地域の文化／同時代の中国文化ではなく、唐代への憧憬／朝鮮(高麗)でも類似の展開 pp.57

### 4. 留意すべき点

日本列島の政治・経済・文化の捉え方／古代に限らず、東アジアのなかで理解すべき

a. 水稻農耕／朝鮮半島 or 台湾・琉球を経て、or 中国から直接、九州へ到達／中国大陸から渡来人により伝来

b. 天皇号・日本号／成立が同時か別々かは議論があるとしても、中国を意識した称号であることは確か

c. 国風文化／中国文化を意識しないで成立は不可能

おわりに

単一の視点ではその時代を理解するのに不十分

- a.隣接学問との協同の必要性／考古学、人類学、文学
- b.政治・経済・文化の相互関係

【参考文献】

設楽博己編『日本史の現在 1 考古』（山川出版社、2024 年）

大津透編『日本史の現在 2 古代』（山川出版社、2024 年）

木村茂光『「国風文化」の時代』（青木書店、1997 年、その後 2024 年に吉川弘文館から再刊）

皆川雅樹『『紫式部日記』からみた「国風文化」という「文化」』（歴史科学協議会編『深化する歴史学—史資料からよみとく新たな歴史像』大月書店、2024 年）

【付 記】

- ・明日までに、Waseda Moodle にて講義記録の提出を求める。
- ・小レポート提出期限 2026 年 1 月 15 日／小レポートを提出した者が試験（2026 年 1 月 23 日）の受験資格を有する。